

世界と向き



アジア医師連絡協議会 (AMDA) 代表

菅波 茂さん (46)

—岡山市植津—

岡山拠点に医者ら派遣

国境超え人道主義貫く

政局不安や民族紛争による貧困、飢え、病气。世界各地で苦しむ人々のために、岡山を緊急救済活動のメッカにしたい。シを中心とする地域に代表の菅波茂医師は、医師、看護婦らを派遣し、白衣の首に聴診器をかけた。インド、イラン、ネ

岡山市植津の書院内科。たまに言葉を通まカシ、タイ、フィリピン、カンボジア、エチオピア、バングラデシュ。無国籍者に巡回診療に当たった。月間、アジア、中近東を旅行した。医師としてからもインドやタイ、フィリピン

導など医療援助をして、細か三欠ける。菅波さんの言葉に一段と自信がられる。その点、私たちがNOは違う。行動の判断基準は国益しやない。人道主義、ヒューマニズムである。人道に国境はない。

AMDAは今年の課題を運び、緊急救済活動の充実を掲げる。具体化するものと、構想が、菅波さんの面の中心に、植津の国で合同チームを編成し、連やに、五月にスタートさせる予定。

AMDAの一貫した理念、アジアのより良き医療、より良き将来を目指す。カネに偏りがちな日本の海外援助には疑問の目を向ける。国益が絡むか。ODA、政府開発援助などとは商社、コンサルタト会社が利益を図っている。二型プロジェクト中心、住民の生活に密着しな

タイを訪れ、前バンコク右から4人目ら現地の人と話し、菅波さん(同右2人目)。医療援助だけでなく、農業振興にも熱心。昨年10月



「これまでチャドのコレラ対策、対トルコ国境のルドルフ氏にも参加し、シニアとして、バルカン半島の内戦は衝動がた。『すまじき人が殺り、繰り返す』と、われわれは、終戦の展望も見えない。現実には、民族主義が戦争を繰り返している。と、憤りを隠さない。

国境なき医師団

一九七一年フランスで創設。オランダ、スイスなど欧州六カ国に支部を置く。九十九国からボランティアの医師、看護婦、技術者約三千人が登録。人道主義の立場から自然災害、戦乱の地に活動。医療活動に従事する。四十五億円の運営費のうち、七十％は五万人の個人寄付による。広報と資金協力のためのリエゾン・ビュローが今年、日本に発足する。

血みどろの戦場と化したボスニアヘルツェゴビナ。ユーゴスラビアを解体に追いやった民族紛争は全面解決に程遠く、犠牲者、難民は増える一方。国連の平和維持活動でも武力衝突の危険にさらされ、中で、今、民間医師団体「国境なき医師団」(MSF)が避難民の救護に奔走している。

旧ユーゴでは、ロシア派遣チームがクロアチアを中心に活動。一方、ベオグラードに拠点を置いたヘルキ派遣チームがボスニアを含む他の地域を担当している。



「ベオグラードの『国境なき医師団』事務所、所で語り合うエリック・ダシーさん(左)とオグレン・ヘルキさん(右)。

しかし、周辺のが激しく、周辺の人々として、化す。見知らぬ人々を感じ、疑念の目も、水道も電気も不衛生な環境も加わって五人合えなさが、一番うれし

「民の支援はできない」と、紛争軍国を巻き込んで、力、干渉、駆け引きの道具として、国家主権の「支援」外交を強行しようとする。山崎共同記者

一九九一年八月からベオグラードで陣頭指揮を執る現地代表のヘルキ人医師エリック・ダシーさん(左)。

「ユーゴで救済活動する『国境なき医師団』代表



「テントをすべて撤去して、重たげな物、車を手当てす。もう二つのロジック

「心は融れ合っている。危うく命拾った。

「心は融れ合っている。危うく命拾った。

「心は融れ合っている。危うく命拾った。